

# 発掘ニュース

第 28 号

平成 2 年 8 月 26 日

 発行 財団法人 いわき市教育文化事業団  
 法人 TEL 0246-888888  
 (29) 0391

## 荒田目条里制遺構・砂畑遺跡 2

【遺跡の概要】当遺跡は、常磐バイパスの建設に伴ない、平成元年5月から調査が行われています。昨年の調査では、砂畑遺跡から、弥生時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が数多く発見されました。今年の調査でも引き続き多くの遺構や遺物が発見されており、特に西日本の影響を受けた弥生時代初頭の土器、東海・北陸系のこしきはじき古式土師器、奈良・平安時代のほったてばしらたてものあとぐん掘立柱建物跡群などは、いわきの歴史を考える上で重要な資料となるものと思われまじょうりす。荒田目条里制遺構からは、溝跡・杭列・旧河川などが発見されています。調査は平成2年10月頃まで続けられますが、今後の調査も大いに期待されています。



掘立柱建物跡（人が立っているのが柱の跡です）

【奈良・平安時代の夏井地区】砂畑遺跡からは、奈良・平安時代の掘立柱建物跡が 104棟も発見されています。しかし、104棟全てが同時期にあったのではなく、一時期は20~30棟ほどで、3時期以上に分かれるようです。それでも、これほど多くの掘立柱建物跡が発見されたのは、いわき市内では初めてのことです。今までいわき市内で発見された奈良・平安時代の住居跡は、ほとんどが地面を掘りくぼめたたてあなしき竪穴式のものでした。それから考えると、当遺跡の掘立柱建物跡群は、かなり特異なものと考えられます。

奈良・平安時代になると国家の整備がすすみ、全国に「国・郡・里」などが設置され、それぞれに役所にあたる「官衙」が置かれました。いわき地方は陸奥国の石城郡と菊田郡にあたり、夏井地区はそのうちでも石城郡に含まれていました。石城郡の設置は 653年のことです。そして平下大越にある根岸遺跡が、石城郡の官衙の跡と考えられており、巨大な柱穴の並ぶ建物跡が発見されてい



C・D区全景（柱穴が並んで



ます。また、奈良時代は官衙と一緒に寺院も建てられていました。根岸遺跡のすぐ近くにある夏井廃寺跡なついはいじあとがそれで、現在でも田んぼの中に塔の土台である基壇きだんと、柱を支えた礎石そせきが残っています。そして、砂畑遺跡では、円面硯えんめんけんや多くの墨書土器ぼくしょどきが発見されていることから、砂畑遺跡の掘立柱建物跡群は、一般の集落とは少し異なった性格を持っていた可能性が強いため、このような官衙に関係ある人々が住んでいたのが、砂畑遺跡だったのではないのでしょうか。

また、砂畑遺跡では井戸跡どこうや溝跡、土坑なども発見されています。土坑には不用になったものを捨てたと思われ、中には土師器や須恵器、木製品などが数多く埋められていました。井戸跡にも土師器や持ち運びできる簡易カマドの破片が捨てられていました。簡易カマドもいわき市内では初めての発見です。

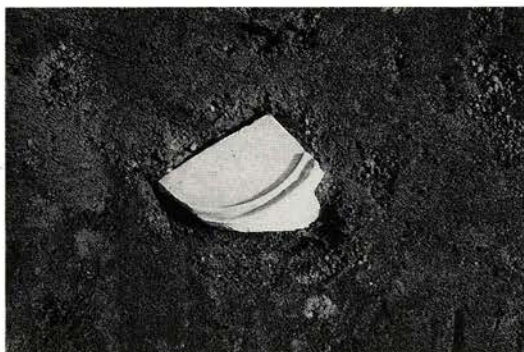
荒田目条里制遺構では、炭化米が発見されていることから、古代の水田のある可能性も考えられています。条里とは古代の水田区画のことで、平荒田目周



いるのが掘立柱建物の跡です)

辺では大正時代に圃場整備が行われる以前は、この条里のなごりがそのまま残されていたといわれています。砂畑遺跡の掘立柱建物の集落の目の前には、整然と区画された水田地帯が広がっていたのかもしれませんが。

石城郡の官衙がいつごろ廃絶されてしまったのかは不明ですが、少なくとも平安時代までは続いていたと思われます。これらの重要な遺跡のある夏井地区は、当時の政治・経済の中心であったのです。しかし、やがて武士が台頭してくると、世の中の流れの中で政治の中心は他へと移って行き、夏井地区には雄大な水田地帯のみが残されることになるのです。



円面硯出土状況



土坑に捨てられた木製品

#### 連絡先

(財)いわき市教育文化事業団  
TEL 29-0391 (代)  
荒田目条里・砂畑遺跡事務所  
TEL 34-7216



奈良・平安時代の井戸跡